



営農NEWS



出穂前の穂ばらみ期に降雨日が多いと予想されたら、雨の合間をぬって、穂いもちや稲こうじ病の防除を行いましょ

今年の梅雨入りは平年より早く、その後は、概して平年より降水量がやや多い傾向で経過しています。

また、今後の気象 1 ヶ月予報（7 月 10 日発表）では、「期間の前半は平年に比し曇りや雨の日が多く、後半は平年と同様に晴れの日が多い」と予想され、穂いもちや稲こうじ病の発生については注意が必要な条件と考えられます。

県病虫害防除所の「病虫害速報No.4（7 月 10 日発表）」によりますと、現在、葉いもちの発生は平年並ですが、県央および県南の一部で発病度の高い圃場が確認され、また、7 月に入ってからの葉いもち感染好適日の出現が広範囲で平年より多いため、「**県内の広範囲で葉いもちの増加が予測される**」と注意の喚起と適期防除を呼びかけています。

7 月中旬には「あきたこまち」の出穂期になり、「コシヒカリ」も 7 月下旬～8 月上旬に出穂期になりますので、7 月中旬以降まで降雨日が多くなると予想されたなら、**穂いもちや稲こうじ病の発生に注意**が必要になります。

特に、穂いもちによる減収がときどき発生する地域、過去に稲こうじ病の発病が多かった水田では、下記を参考に薬剤の予防散布に努めてください。

1 いもち病

穂首いちは、出穂直後から 10～15 日後くらいまでに感染すると被害が大きくなります。その後 20～25 日目くらいまでは収量に影響する被害が発生する恐れがあり、枝梗いもちや靱いもちでは、さらに感染期間が長くなります。

穂いもちの主な伝染源は葉いもちの病斑で、**止葉以下 3 葉目までに病斑がある場合には、特に注意が必要**となります。

葉いもちが多発生したり、出穂前～出穂期以降の天候が不順と予想される場合は、**出穂期前に予め粒剤を本田に散布**（薬剤により、効果発現までの期間が異なりますので、使用時期を確認）して、発病を長期に防除する必要があります。

表 1 水稲 穂いもちの主な防除薬剤（平成 26 年 7 月 10 日現在）

薬剤名	希釈倍数または施用量	使用時期 / 使用回数
コラトップジャンボ	小包装(パック) 10～13 個 (500～650g) / 10a 投入	出穂 30～5 日前まで / 2 回以内
フジワン粒剤	3～5kg / 10a (湛水散布)	収穫 30 日 (出穂 10～30 日前) 前まで / 2 回以内
キタジンP粒剤	3～5kg / 10a	出穂 7～20 日前まで / 2 回以内
ルーチン粒剤	1kg / 10a (湛水散布)	収穫 30 日前まで / 2 回以内
オリゼメート粒剤	3～4kg / 10a	収穫 14 日 (出穂 3～4 週間前) 前まで / 2 回以内
ブラシフロアブル	1,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内

注) 上記の粒剤は、田が湛水状態のときに均一に散布し、散布後一週間は落水、かけ流しを避けてください。

2 稲こうじ病

伝染源は前年の被害粒にできた硬膜胞子（耐久性の高い胞子）あるいは菌核とされ、被害残渣や土壌上で越冬したものが発芽し、飛散して穂ばらみ期頃にイネに感染するとされていますが、詳細については不明な点が多いです。

感染時期の穂ばらみ期頃に、**降雨が多くて気温が低いと多発生する傾向**があります。

病徴は、感染した靱に緑黄色の塊が現れ、次第に肥大して濃緑色から黒緑色となり、靱を包み込むようになります。

本病が発生すると登熟歩合の減少や千粒重の低下、青米などの増加が見られる他、汚損被害粒の混入による等級低下などで大きな経済的損失となります。特に、採種用水田においては、防除を徹底して発病を防ぐ必要があります。

<防除対策のポイント>

- 窒素の過剰施用や遅い追肥は、発生を助長するため、適正な肥培管理に努めましょう。
- 本病の常発田や前年に多発生したところでは、必ず下記を参考に薬剤防除を実施しましょう。
- 薬剤防除として、出穂 20～10 日前が防除適期です。幼穂を確認するなどして、防除時期が遅くならないようにしましょう。なお、防除適期を過ぎると効果の低下や薬害発生の懸念が生じますので、必ず適期防除に心がけましょう。
- 収穫期に発病靱が観察されたら、可能な限り取り除き、健全靱に混入させないようにします。また、収穫作業は靱が十分乾燥してから行い、発病田と無発病田の作業を分けて行うなど、選別や混入防止を徹底しましょう。

表 2 水稲 稲こうじ病の主な防除薬剤（平成 26 年 7 月 10 日現在）

薬剤名	希釈倍数または施用量	使用時期 / 使用回数
ブラシフロアブル	1,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内
Z ボルドー粉剤DL	3～4kg / 10a	出穂 10 日前まで / -
ドイツボルドーA	2,000 倍	出穂 10 日前まで / -

農薬を使用する際は、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040